

めざす学校像・子ども像・教員像		課題	今後の改善方策
<b>【目指す学校像】</b> ○あいさつに溢れ、明るく生徒が登校する学校 ○環境美化を推進し、安全で学習に専念できる学校 ○いじめや不登校がなく、正しいことが認められる学校 ○保護者や地域社会から信頼され、開かれた学校 <b>【目指す生徒像】</b> ○学校を愛し、誇りを持ち、社会に貢献できる生徒 ○将来を見据え自らを律し、正しく行動する生徒 ○逞しい心身を持ち、粘り強く、自ら課題に立ち向かう生徒 ○自他の人格を尊重し、互いに認め合い高め合う生徒 ○自らの考えを発表し、行動できる生徒 <b>【目指す教師像】</b> ○一人一人の生徒に、真の愛情を注ぐことができる教師 ○学校教育目標を理解し、具現化のため努力する教師 ○研修に努め、専門的知識と生徒指導力を備えた教師 ○保護者や地域社会との連携を密にし、 教育の本来に努める教師		確かな学力の向上  不登校生徒をつくらない取組  道徳教育の充実	・補充学習の時間の工夫改善と効果的活用を図る。 ・小学校と連携して授業規律の統一や学習内容の系統化などを進める。 ・自ら学ぶ意欲の向上を図るために、積極的に小集団での学び合いを導入していく。  ・家庭訪問や保護者連絡等の迅速な対応と継続的な取組を行う。 ・不登校対応教員、担任、SC、SSWとの連携をより密にし、組織的体制の構築を行う。  ・アンケート調査や生徒の実態を踏まえ、重視する内容項目の焦点化を図るとともに、組織的な取り組みを行う。 ・A事業の成果を生かしながら、生徒の実態を踏まえた評価のあり方や教師の力量の向上に努める。
重点目標	指標(取組指標・成果指標)	達成状況についての説明	
基礎学力の定着及び、指導方法の工夫改善を通じた学習指導の充実	基礎・基本の定着と言語活動の充実を目指し、小集団を活用した授業改善の取組を進める。(取組指標)	・少人数指導を導入した教科について、成果が見えはじめています。それ以外の教科でも、小集団(班)の活動を取り入れるなどの授業改善の取組を進めています。	
	補充学習(定期考査前)・学習コンクール等を計画的に実施する。(取組指数)	・基礎・基本の定着を目指して、補充学習を計画的に取り組んだ。また、学習コンクールを実施することができた。	
	家庭学習について90%以上の生徒が定着できるようになる。(成果指標)	・塾や習い事以外で毎日家庭学習に取り組んでいる生徒は、全体の約80%程度であるため、課題が残る。	
	全ての教科で、小集団を活用した学習を取り入れる。(成果指標)	・全ての教科で、何らかの形で小集団(班活動)を取り入れた学習を実施した。	
自己指導能力の育成と不登校を生まない生徒指導の推進	問題行動やいじめを未然に防ぐ指導体制の確立と職員間の情報の共有化を図り、個に応じた指導を徹底する。(取組指標)	・生徒指導委員会で情報を共有したり、定期的なアンケート実施や個別面談を行うことにより、問題行動やいじめの未然防止に対応することができた。	
	不登校対応教員・SC・担任との連携を密にし、家庭訪問や保護者連絡等の対応を迅速に行う。(取組指標)	・不登校生徒への対応は、不登校対応教員と担任との連携をとりながら家庭訪問や保護者連絡を積極的に行った。	
	個に応じた支援を工夫し、不登校傾向の生徒の減少を目指す。(成果指標)	・不登校生徒のうち教室登校ができるようになった生徒が1名、適応指導教室への出席数増加が3名、適用教室に通えるようになった生徒が1名など変化が見られた。	
	生徒アンケートで、規範意識に関する項目に対する肯定的回答が、前年度に比べ1割以上の増加を目指す。(成果指標)	・校内規範意識アンケートの4項目のうち肯定的な回答をする生徒の割合が5～8%増加した。	
「當仁不讓於師」の精神と実践力をはぐくみ規則を遵守する道徳教育の充実	道徳教育・人権教育の研修を通して、教師の実践力を高める。(取組指標)	・校内研修では、「自他を大切に育てる道徳教育の推進」～振り返りタイムを取り入れた道徳授業の取り組みを通して～の研究主題のもと、道徳教育に取り組んだ。	
	学年全職員でローテーションを組んで道徳授業を行う。相互に授業を参観を行い、実施後検討会を行う。(取組指標)	・3人組(2人組)のローテーションを組み、授業後の小グループによる反省会を生かし、よりよい道徳授業の構築に取り組んだ。	
	各学年、重点項目を定めて取組む、アンケート調査で肯定的回答が前年度に比べて1割以上の増加を目指す。(成果指標)	・アンケートでは、生徒にとって複数教師による道徳授業が楽しい時間となった。また、考えを交流する時間をとることで自分の意見を述べようとする生徒が増えた。	
	生徒アンケートにおいて、自尊感情の項目に対する肯定的回答をする生徒の割合が前年度を上回る。(成果指標)	・アンケートで、「自分のよさや才能がわかっている」が学年により差があるが、前年度より2～5%上回っている。	
学校関係者評価についての説明(評価委員からの意見・要望・改善に向けた提言等)			
○多くの研修、研究発表に取り組んでいると思います。 ○生徒の力を引き出すような様々な取組みや生徒のことをよく考えたアンケート方法など大変よく考慮されています。 ○がんばっている様子、前向きに取り組もうとする様子、地域の大人にきちんと対応しようと努力する様子に好感がもてます。 ○学力の格差を少しでも改善できるように考えていただきたいと思います。 ○子どもたちはおとなしい反面、受け身であるので、もう少し自発的だとよいのではと思います。 ○部活動で良い成績が出ているので、生徒たちは頑張っていると思います。			